

## 令和3年度 第1回 岡山市環境政策審議会概要

1 日時 令和4年 1 月 18 日(火曜日) 午前 10 時～午前 11 時 55 分

2 場所 市役所本庁舎1階 北区選挙管理委員会会議室

3 出席者

委員:赤井委員、市委員、黒崎委員、利根委員、長門委員、中村委員、藤原委員、松井委員、  
三宅委員、山口委員

岡山市:環境局長、環境局次長ほか関係職員

事務局:環境企画総務課

4 傍聴者 1 名

5 主な意見

(1)岡山市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(素案)について

計画の概要について説明を行い、質疑応答が行われた。特に指摘があったのは次の 2 点。

①数値目標について、積み上げの仕方の根拠を盛り込む。

②プラスチックごみ削減(資源化)について、新たに節を設けるなど、記載を充実させる。

その他、主な内容は以下のとおり(●は委員、○は当局を示す)

●本編の第 3 章の「岡山市のごみ処理の現状と課題」の中で、現状は詳しく書かれているが、課題の整理について、書きぶりが不足している。現状の何が原因となって課題が生じているのかについて、説明してほしい。見る限り、特に事業系ごみは削減できる余地が大きいのではないかと。

○事業系ごみについては、平成 26 年以來となる組成分析調査を実施した。その中で、紙類と生ごみ(厨芥類)が多量に含まれていることがわかった。市内には令和 3 年度から稼働を開始した民間のメタン発酵発電施設があり、こういった施設を利用することで焼却する生ごみを減らすことができるが、周知が不足しているため稼働率が低く、ごみの減量につながっていない。

家庭系ごみについては、有料指定ごみ袋の導入、生ごみ堆肥化に向けたダンボールコンポストの配付、小型家電の回収といった施策を実施してきたが、ごみ量の減少は横ばいで、資源化率の向上も近年横ばい傾向にある。今後、可燃ごみの中に含まれるプラスチック類を分別回収することで、ごみ量の減少と資源化率の向上を目指していく。

●ごみ量の推移や要因分析について記述があったほうが、後の政策にも反映させやすいし、後々成果を検証する際にも使える。数値で表すのが難しいということであれば何かしらそれに近いものを出してもらいたい。

●紙類にしても事業者がきちんと分別していないのはもったいない。環境面への配慮を事業者に求めるにあたって、今、これだけもったいないことが起こっているから、これをこう分別して資源にするといいことがあるという視点が必要だと思う。

●企業の場合は、コストと便益で動くので、分別しない方が有利ということになるとなかなか分別し

ようとしな。きちんとやっているところには奨励金を、やっていないところにはペナルティをというようにすることがあってもいいかもしれない。

●見直しのポイントに挙げてある事業系古紙の回収ルートの確立について。他の自治体の事例だが、焼却施設への紙とプラスチックの搬入指導を徹底したところ、大きくごみ量が減ったということがある。岡山市でも回収ルートを周知するのと併せて、焼却施設への搬入指導を行うと効果が上がるのではないかと。

●家庭系ごみについて、全国でもごみ量が少ない松山市や八王子市では、分別されないまま出されるごみの量というのが非常に少ない。平均的な自治体で全体の中に1割程度含まれる不適切な分別がほぼゼロ。岡山市でも同様に分別できれば1割程度はごみが減ることになりとても効果が大きい。このあたりの先進事例との比較で問題点を洗い出してはどうか。

●目標値について、この計画の効果を足し合わせるとこの数字になるという数字の根拠が必要だと思う。特にプラスチックについてはこれまで燃やしていたものを分別回収するとなると、焼却炉の稼働率や発電効率、収集対象の範囲や収集コストなど様々な面で影響が出る。リサイクルという方向性はいいので、どう実現していくかについてバックデータに基づく積み上げを示してほしい。

●今回新たに追加された第5章の食品ロスについては課題の整理や取組みも書いてあるが、それに比べるとプラスチックの部分が弱いので、章を設けるのが難しいならば、節でもかまわないので、バックデータとか施策での対応とか、個々人の行動の方向性などは触れた方がよい。

●岡山市がやっている環境学習や出前講座についての記述があるが、そういった機会にSDGsの考え方について触れるようにしてもらえれば、子どもを通じて家庭への浸透が図れるのではないかと。

●先に県が食品ロス削減推進計画の案を示してパブリックコメントを募集していた。大学の方で学生と一緒に意見をまとめて出したが、そのうちいくつかを紹介する。①目標を立てる際に、全体のざっくりした数字だけでなく、細分化した目標を持っている自治体の例があるので参考にしてはどうか。②食品ロスには廃棄物や福祉など複数の部署が携わるので、横の連携をとるような仕組みを作ってはどうか。③岡山県では削減検定、福井県ではフードロスマイスターという名称で、啓発事業の講師ができる人を養成している。こういった人づくりの仕組みもよいのではないかと。④マッチングサービスについて民間と連携するような形もあっていいのではないかと。⑤フードバンクやフードドライブはよいことだが、転売等の問題もあるように聞いているので、ガイドラインとかマニュアルを作ってはどうか。

●フードロスは家庭教育と深く結びついている。買物、調理、食事といった一連の行動に関する教

育の中に組み込むことで効果が上がると思う。

- 食品廃棄物を肥料化・飼料化する施設を整備しようとする事業者に対する支援は何かあるか。  
○一般廃棄物、産業廃棄物いずれについても許可を取る必要がある。興味を持つ事業者がいれば必要な手続きの相談等で支援していきたい。
- 家庭からの生ごみの減量化であれば、ダンボールコンポスト事業というのがあって、家庭で生ごみのある程度堆肥化すると、商品券と交換してもらえる。こういったものを普及させれば家庭からの生ごみを減らせるかもしれない。
- 自宅でダンボールコンポストによる堆肥化を実践するのは難しいという人もいると思う。公設に限らず民間との協働も含めて回収拠点を増やせば、生ごみの減量につながるのではないか。
- 自治会などが公園単位で生ごみの堆肥化をして、公園の花を育てるのに使うといった仕組みはどうか。地域での循環が起これ、公園を中心とした地域の環境対策につながるのではないか。
- 食品リサイクルループという取り組みがある。生ごみを堆肥化したものを農産物の生産に使うことで消費と生産の循環を作り出す。堆肥を利用した農家の生産物を必ず買い取ると約束するなど、意欲のある事業者が必要だが、構想としてはあってもいい。
- ごみの削減先進地である京都市では、ホームページが見やすく充実している。岡山市のホームページも利用者目線で利用しやすく工夫して欲しい。

## (2)岡山市一般廃棄物(生活排水)処理基本計画(素案)について

計画の概要について説明を行い、質疑応答が行われた。特に指摘があったのは次の点。

- ①数値目標は、全国平均に合わせる必要はなく、地域の事情に応じた 86.8%でよい。

その他、主な内容は以下のとおり(●は委員、○は当局を示す)

- 下水道の普及率を上げるにあたって、既に普及しやすいところの整備は終わっているので、数値を上げるには当然コストが高くなる。今後は既存の管の改修や災害対策も必要になるので、新規整備によるコストメリットを考慮する必要がある。数値目標は現実的な無理のないものでよいのではないか。
- 人口密度、集落の状況と下水道の状況。こういったものを勘案して管を伸ばすことでどの程度のメリットが生まれるのか。費用的に難しいところは合併浄化槽を利用して進めるという形がよい。

●下水は来ているけれど繋げていないという人がそれなりにいるようだ。接続を促す施策は何かあるか。

○法律上は接続義務があるが、現実として費用負担が発生する。市としては補助金制度を設けて支援している。

●下水整備は下水道局、合併処理浄化槽は環境局という分担だと思うが、86.8%という目標数値は両方を合わせた結果でよいか。

○下水道の方は、今の下水の整備率と将来人口の予測から、これだけ伸びるだろうという予測をもとに算出している。合併処理浄化槽は過去の実績に基づきトレンド法で算出している。

●合併処理浄化槽を作ると補助金が出ると思うが、下水道が来ていない地域の方が合併処理浄化槽を導入するかどうかは個人の意思決定にゆだねられるところがあるので、なかなか数が増えていかない。補助金を増やすことも難しいだろうし、仮に 0.1 ポイント上げるにはこれだけのコストがかかるということをおさえておいた方がよい。

●目標値を今記載の 86.8%から全国平均の 87.7%に引き上げるかどうかについてだが、全国平均の数字は全国の総人口を分母に、処理人口を分子にしているのか、各市町村単位で率があってその平均なのか、どちらなのか。

○市町村ごとの積み上げになっている。

●その場合、周辺地域を合併してきた岡山市は数値を上げるのが都市部に比べて難しい。全国平均を目標とする根拠は特にないので、地域に合わせた数字でよいと思われる。仮に上方修正するのであれば現在の整備計画に追加で投資する必要が生じる。

●ナノサイズのプラスチックは下水の処理施設で処理できるものなのか。

●最終的には凝集沈殿で処理しているが、あまり小さいものになると廃棄物処理では難しく、製品を生産する方で考える必要がある。